

学校教育目標	主体的に学び 豊かな感性をもち たくましく行動できる子どもの育成
育成を目指す資質・能力	・自分の考えをもち、発言できる ・なかまの考えを大切にし、伝え合うことができる ・探究心をもって、学びを広げ深めることができる

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 5年国語は、既習漢字、修飾語の理解が不十分。調べたことをもとに文章を書いたり、決まった条件の中で文章を書いたりする力が弱い。算数は、小数のわり算の理解が不十分。数量関係を式で説明する力が弱い。理科は、「電気のはたらき」「物のあたらまり方」の定着ができていない。 6年国語は、文章を内容のまとまりで捉えたり、要点をつかんで書いたりする力が弱い。算数は、知識やデータをもとに式や図・数直線で表現したり、言語化して説明したりする力が弱い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・漢字や言葉、計算などの基礎・基本の定着を図る。(国・算) ・「何を求めるのか」「どんな条件で求めるのか」等読む目的を明確にした授業や書く目的・意図を明確にし、考え・理由を書く活動を取り入れる授業の展開。(国) ・図や表、式から問題場面を考えることを意識させ、数量の求め方を数理的に捉える力を養う。式だけでなく言葉を書いて考える習慣を付けさせる。(算) ・実験や観察の結果を日常生活で活用する場面と関連付ける授業展開。(理) ・家庭学習の時間の確保や学習習慣づくり。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 1学期の単元末テストの結果では、「知識・技能」の観点で国語84.9点、算数89.1点、「思考・判断・表現」の観点で国語86.7点、算数83.4点となっており、全体としておおむね定着できているといえるが、低位の児童の底上げが必要である。また1学期の児童アンケートでは「自分の考え、まとめ、振り返りを書くことができた」が84%、「ペアやグループでも活動の時、友だちと協力して取り組んでいる。」が94%が「とてもそう思う」「そう思う」と答えている。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 授業中に計算力・筆記力を付ける練習問題やプリント、ドリル学習を適宜取り入れている。また、家庭学習で練習問題をさせながら、基礎学力の定着を図っている。自分の思いや考えを伝え合う授業については、少人数による話し合い活動を積極的に取り入れて、考えを深める場としている。振り返りについては、書く活動を取り入れ、よりねらいに対応した振り返りをさせ、考えを深め、広がっていくようなものにしていく必要がある。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 学校研究の中で、「めあて・課題・まとめ・振り返り」のある授業や「考えをもち、伝え合う、書く」活動を取り入れた授業を実践している。家庭との連携や学級の雰囲気づくりなど、今後も工夫して進めていく必要がある。	

学力に関する達成指標

○国語、算数の単元末テストにおいて「知識・技能」の観点、80点以上のクラスが全クラス中80%以上。(1学期国語9/13学級 69% 算数12/13 92%) ○国語、算数の単元末テストの「思考・判断・表現」の観点、70点以上のクラスが全クラス中80%以上。(1学期国語13/13学級 100%、算数11/13 85%)
--

